

家兄かけいに寄せて志こころざしを言うい（広瀬武夫ひろせたけお）

勤王大義太分明 報國丹心期七生  
傳家一脈遺風在 誓學名聲弟與兄

解説 この詩は作者が日露の役に出征するに際し、その覚悟を家兄に述べたもの。

勤皇きんのうの 大義たいぎ 太だはなは 分明ぶんめい

語釈 ※丹心にんしんまごころ。※期七生きしちせい 楠木正成が湊川の戦に敗れて弟

報國ほうこくの 丹心たんしん 七生しちせいを 期きす

正季と自刀するとき「七度人間に生まれて朝敵を滅ぼさん」と誓った言葉に基づく。※伝家一脈でんかいちみやく 広瀬氏は南朝の忠臣菊池氏の後裔であるから、伝家の字を用いた。

伝家でんか 一脈いちみやく 遺風いふう 在りあ

通釈 臣として君のために忠節を尽くすという大義は、はなはだ明白

誓ちかつて 名声めいせいを 拳あげん 弟ていと 兄けいと

であって、国に報いようとするわれわれの真心は、かの楠木正成・正季兄弟のごとく、七たびこの世に人間として生まれかえって逆賊を絏ぼそうとする覚悟そのものである。わが家は名譽ある忠臣・菊池氏の子孫であるので、このように君のために命を捧げようとする忠節は、祖先伝来の遺風である。願わくはこのたびも先祖に劣らぬ武勲を立て、兄弟誓つて、わが家の名声をあげたいものである。